

特別養護老人ホーム六甲の館

～利用者ファーストのための、職員ファースト～

介護職員の働きやすい職場環境づくり
内閣総理大臣表彰（令和6年度受賞）



法人名：社会福祉法人弘陵福祉会
施設名：特別養護老人ホーム六甲の館

- ・介護老人福祉施設
- ・神戸市北区山田町小部字妙賀山13-17
- ・長期70床・ショートステイ10床
- ・職員数

常勤33名、非常勤15名

お問い合わせ先 ☎ 078-594-2451

rokko-yakata@blue.ocn.ne.jp

[Instagram.com/rokkonoyakata/](https://www.instagram.com/rokkonoyakata/)

施設長 （みぞた ひろみ）
溝田 弘美



取組のポイント

①職員の待遇改善に係る取組

- ✓ノーリフト宣言を行い、腰痛ゼロ施設を目指し、腰痛対策を強化。
- ✓外国人が働きやすい環境を実現

②生産性向上の取組

- ✓ICT・介護助手・外部サービスの活用とノーリフティングケア（人力で抱えない介護）の推進（天井リフトを全居室・浴室・静養室・トイレに導入）で余裕のある介護を実現

③人材育成に係る取組

- ✓5S活動に、スマイル（笑顔）とスピーディ（頼まれたらすぐ実行）を加えた7S活動を推奨
- ✓人間関係を良くする褒めるスキル研修を推奨

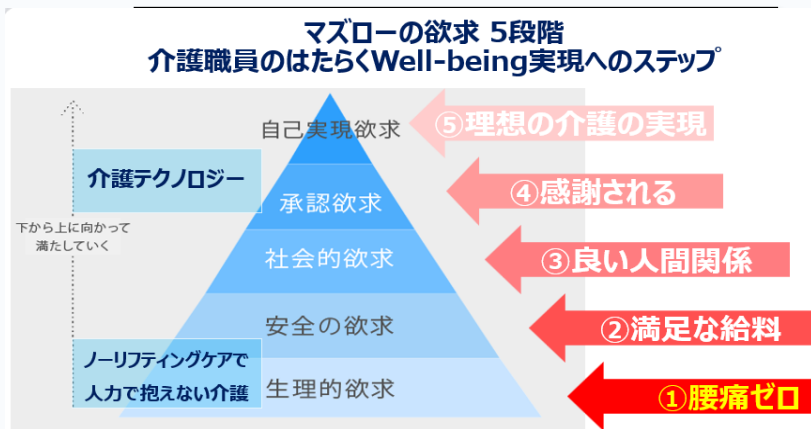
取組詳細① 職員の待遇改善に係る取組

○取組の概要

ノーリフト宣言を行い、腰痛ゼロ施設を目指し、腰痛対策を強化。若い外国人介護職員も多く、ワークライフバランスを考えて、働きやすい環境を実現してきました。

○取組のポイント

マズローの欲求5段階説に基づき、介護職員の働くウェルビーイングへのステップとして、腰痛対策からはじめている。介護職員は、元気で欠勤なく働くことで、給料を得て、良い人間関係で、感謝されるような介護ができて、自己実現欲求となる理想の介護の実現ができると考えている。



取組詳細② 生産性向上の取組

○取組の概要

全居室だけでなく、浴室・静養室・トイレにも天井走行リフトを導入して、人力で抱えない介護で、余裕のある介護を実現している。さらに、複数の見守りセンサーや介護テクノロジーを導入することで、レクリエーション活動を充実させている。

○取組のポイント

質の高いケアへのハードルを下げることは重要で、生産性向上において、天井走行リフトは万能のテクノロジーでした。ICT機器活用は、毎年、さまざまな実証を行い、データを算出し、計測してきました。その効果を可視化して、共有することで、次の導入につなげていくことが重要です。



取組詳細③ 人材育成に係る取組

○取組の概要

5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）にスマイル（笑顔）とスピーディ（頼まれたらすぐ実行）を追加した7S活動の推奨。ノーリフティングケア手当の支給や研修の実施。人間関係をよくする「ほめ達」というコミュニケーション手法を推奨。

○取組のポイント

テクノロジーを使うか使わないかに関係なく、温かい介護の基本は、職員からの温かい声掛けであるため、コミュニケーション手法を学ぶ価値があると考えている。外国人が多いため、コミュニケーション手法を決めておくことは重要だと考えています。



Episode

取組を始めたきっかけ

きっかけは、9年前から離職率が高かったためです。施設長が現場にがっつり入って、人力で抱える介護が、職員の腰痛だけでなく、利用者さんの拘縮や褥瘡を悪化させる原因になることがわかり、その時から、人力で抱えない介護を徹底して目指すことになりました。そして、介護のあり方は、利用者ファーストのための職員ファーストという考え方となりました。

取組を進めるにあたって苦労したこと

苦労したことは、新しいプロジェクトを開始する度に、変わりたくない職員からの反発・抵抗があったことです。丁寧に説明する必要があった訳ですが、そもそもの人間関係を良くする必要がありました。そこで、日本ほめる達人協会の「ほめ達」というコミュニケーション手法を取り入れて改善しました。

取組の成果・効果

六甲の館にとって、「介護の質」「業務効率化」「職員の負担軽減と満足度」を同時に向上させる万能のテクノロジーは、天井走行リフトでした。移乗にかかる時間は人力で抱える介助の半分以下で、外国人職員にも人気です。産前休暇に入るぎりぎりまで、他の職員と同じように移乗をしてくれた職員もいます。年間880時間（2019年度総計）あった残業は、76時間（2024年度総計）に減りました。

職員の声

六甲の館では、浴室、居室、静養室、トイレと、天井走行リフトの台数が増えるにしたがって、職員の負担軽減・満足度が上がりました。利用者さんにとってもメリットが大きいです。天井走行リフトを使用することで、利用者さんの拘縮・褥瘡が改善してきました。職員は時間に余裕が生まれ、利用者さんとのコミュニケーションやレクリエーションに使える時間が増えるため、利用者・職員にとってWIN-WINです。

Message

施設長から、これから取り組まれる皆様へ

介護の生産性向上は、日本の国家課題です。六甲の館では、介護の本質を高める手段として取り組んできました。ムリ・ムダ・ムラな時間をなくすのは、利用者さんと職員がワクワクする楽しい時間を作るためです。六甲の館には、利用者ファーストのための職員ファーストを叶える7つのステップがあります。テクノロジー導入は、ステップ3からですが、0、1、2を飛ばしてテクノロジーを導入するのは、不安定な粘土の土台に立っているようなものなので、この順番で取り組んで頂けると嬉しいです。

（特養版）
利用者ファーストのための
職員ファーストを叶える
7つのステップ

